

「ジュニア消防検定～自分の命は自分で守る～」

松山市南消防署 安永 優生

今から1年半前、私がいた場所、それは松山市の沖合にある怒和島、全校児童6名の小学校の教室でした。松山市消防局が、次世代の防災教育として行っている「命の教育」の授業で、純粋な瞳でまっすぐと私を見つめていた一人の少女の姿は、今でも鮮明に私の心に焼き付いています。まさか、こんなことが起こるなんて……。あの時、自然災害のこと、避難のこと、災害に対する心構えをもっと伝えることができなければ……。悔やみきれない思いが沸き起こると同時に、改めて痛感したのです。子供たちに災害が起こる前、そして、起こった時の考動力を身に付けさせなければ……。と。

「平成最悪の豪雨災害」。昨年7月、西日本では記録的な大雨が続き、各地に大きな被害をもたらしました。死者は200名を超え、愛媛県内では32名、松山市でも4名が犠牲となり、今現在も各地で復興作業が続いています。そんな中、特に私の心を締め付けたのは、怒和島での土砂災害。滝のような豪雨によって生まれた土砂は、小学1年生と3年生の姉妹、そしてその母親までも飲み込み、一瞬にして3人のかけがえのない命を奪ったのでした。

松山市は、過去の教訓をもとに、大雨や台風などが予想される場合、市民に対して早期の情報提供、早急な避難所開設により、早め早めの避難を促しています。しかし、近年甚大な被害をもたらす自然災害が頻発しているなか、今回の豪雨災害での松山市の避難率、0.2%という数値は、私たちに大きな課題を残しました。今後も起こりうる自然災害で、一人でも多くの大切な命を守るためには、地域住民、特に未来を担う子供たちの災害に対して備える力と、考えて動く考動力が不可欠だと考えます。そこで、松山市教育委員会と連携し、現在行われている消防の職場体験学習を通じて、子供たちの防災力をもっと高めることはできないでしょうか。

私は、職場体験学習時に、中学生を対象とした、「ジュニア消防検定」の実施を、提案します。ジュニア消防検定とは、防災に関する「気づき」の力を高めることにより、防災・減災行動が、身近で当たり前のこととして扱われ、自ら考えて動く力を養うのがねらいです。訓練指導や命の教育と比べて、私たち消防士が子供たちに防災力を伝える時間がある職場体験で、救助・救命、災害危険箇所の確認、災害発生時にどのような行動をとれば良いかなど、防災・減災に関する検定試験を実施し、合格者には証明書と認定バッジを授与します。そうすることで、未来の防災リーダーとしての自覚と誇りを持ち、より一層、防災に対する意識を強めていくことができるはずです。教育委員会は現在、えひめジョブチャレンジU-15を推進しており、職場体験日数を5日間に伸ば

し、子供たちに、地元で働くことの魅力・大切さを感じてもらおうと力を入れています。教育委員会と消防局のコラボレーションによる未来の防災リーダー育成は、将来にわたって災害に強い街づくりに直結するのではないのでしょうか。「命」という漢字は、「人が一度叩く」と書きます。たった一つのかげがえのない命、その命の扉を叩き続けることが、私たち消防士の使命だと思います。あの日の少女の、ひまわりのような笑顔を守っていくために。